

第 104 回日本精神神経学会総会

シンポジウム

日本における若手精神科医の研修 新臨床研修制度第 1 期生としての経験から

小川 雄 右 (熊本大学大学院医学教育部神経精神科学, 日本若手精神科医の会)

はじめに

平成 16 年 4 月より新臨床研修制度が必修化され, 新研修医は内科, 外科, 救急, 麻酔科, 小児科, 産婦人科, 地域医療, そして精神科についての研修を 2 年間行うこととなった。筆者はこの制度を第 1 期生として終え, その後 2 年間の精神科後期研修を終えた。初期研修では救急病院にてスーパーローテートを行い, 後期研修 1 年目は公立単科精神科病院にて, 2 年目は大学病院にて研修を受けた。いずれの研修も熊本の病院で行った。筆者の経験, 研修を終えて実感したことを述べる。

筆者の受けた研修

1) 初期研修

初期臨床研修は, common disease の症例を多く経験したかったため, 1 次救急から 3 次救急までをカバーする救急総合病院・熊本赤十字病院にてスーパーローテートを行った。救急車だけでも 1 日に 10~20 台を受け入れている同院には診療科としての精神科がないにもかかわらず, 救急外来には様々な症状を有する精神科領域の患者が多く受診・搬入されていた。身体各科の専門家との連携が進んだ同院の救急外来ではあったが, 数多くの患者の診療をしなければならない中で精神科領域の問題に遭遇した際に対応に苦慮したことが印象に残っている。救急医療の現場においても精神科医が果たしうる役割は大いにあると感じたことは言うまでもない。一方, 同院における精神科以外の科目の研修においては, 各科の先生方に顔

を覚えて頂いていたこともあって, 専門の先生に医局や廊下で気軽に相談することができて心強かった。様々な診療科の医師と face to face の交流ができるということはスーパーローテートの利点の一つである。

2) 後期研修

スーパーローテート後は公立単科精神科病院である熊本県立こころの医療センターにて後期研修を行った。アルコール依存症や薬物依存症の治療, 統合失調症の退院促進プログラム, 処遇困難例の対応など様々な取り組みを行っている病院で, 精神科臨床に関して幅広く学ぶことができた。

後期研修 2 年目は熊本大学附属病院神経精神科で研修を行った。大学病院では, 病棟診療を中心とした日常の診療に加え, 神経精神科主催の各種研修会に参加した。週に 1 度開催されている熊本大学精神科臨床セミナーでは, 院内・県内の先輩医師だけでなく, 国内外の様々な領域の専門家の講演を聞くことができている。また, 他科・他院の医師とディスカッションする場として「くまもとリエゾンカンファレンス」が定期的で開催されている。たとえば, 同じ症状を訴える患者を前にして精神科医と身体科の医師とでは初めに頭に浮かぶ診断が異なる場合がある…などという大変興味深い話を聞くことができる。その他, 家族も対象とした若年性認知症の研修会や, 高次脳機能障害の家族会等も大学病院にて開催されており, 当事者の声を聞くことができたことは貴重な経験だ

った。また、これらの会でもやはり交流や情報交換の重要性が強調されていたのが印象的だった。

3) 各種勉強会・研修会など

外勤先の病院では、外部の医師も招いて行われる英文テキストの輪読会や児童思春期の症例検討会に参加した。輪読会では、薬物療法、病因論、精神症状学等、参加者がそれぞれ興味のある分野を分担和訳し、ディスカッションを行うという形式で行っており、テキスト執筆陣の多様な考え方にふれることができています。また、個人的には、福岡の心理社会的精神医学研究所主催で開催されている精神療法講座を1年間にわたって毎週受講した。各種精神療法の専門家の先生方から講義を受け、今後の診療に大変役立つ内容を勉強することができ、さらに、他県在住の同年代の医師達と知り合うこともできた。また、この講座をきっかけに「日韓両国の若い精神科医のための合同研修会」に参加し、日韓両国の多くの若手精神科医と交流することもできた。さらに、合同研修会をき

っかけにJYPO（日本若手精神科医の会）に入会し、全国から集まった先輩医師・仲間たちと知り合うことができた。そして、これは非常に個人的なことだが、高校の同級生の中で医学部に進み様々な診療科の医師となった仲間と一緒に、互いの専門領域における「他科の医師にも役に立つ情報」を交代で教え合う勉強会を行っている。これができるのも、スーパーローテートにより他科の医師と気軽に情報が交換できる習慣が自然と身についたからではないかと思う。

最後に

初期研修・後期研修・各種勉強会等を通じて、多くの知識を得ただけでなく、多様な指向性を持った医師と出会い、様々な領域・考え方について知り、価値観やモチベーションに大きな影響を受けた。これらの貴重な経験は、自身の成長につながるものであると同時に、精神科医療、更には医療全体のことを考えるきっかけを与えてくれるのだと信じている。